

令和6年度第2回登別市立図書館協議会 会議内容要旨

■日 時：令和6年7月9日（火）午後3時55分～午後4時55分

■場 所：図書館3F会議室

■参加者：（登別市立図書館協議会委員）

松田 周一 委員

合田 美津子 委員

須藤 和恵 委員

原 美紀 委員

及川 奈緒 委員

（行政）

教育委員会 教育長

安宅 錦也

教育部部長

舘下 貴子

教育部参与

菅田 浩之

教育部次長

西川原邦彦

教育部図書館

舘長

鈴木 貴寛

主査

綿貫 亨

主任

坂本 健二

主任

大澤 みゆき

総務部企画調整グループ総括主幹

近間 聡史

1 委嘱状交付

委員及び行政職員の紹介

2 会長及び副会長の選出

（原委員）

会長が松田さん、副会長が合田さんで事務局一任でどうでしょうか。

（主査）

皆さんどうでしょうか。よろしいでしょうか。

（委員）

はい。

3 情報提供

（舘長）

別添資料の説明

○教育行政執行方針に基づく図書館の在り方検討について

- ・これまでの経過
- ・登別市中央地区まちづくり協議会からの提言について

(松田委員)

ここまでで、何か質問等ございますか。

(合田委員)

まちづくりワーキンググループなど議事録を読むと、なかなか良い意見を指摘している委員があるんですけど、それが載ってない。ちゃんと正しく市民に伝わらないと思います。みんなが思う疑問をちゃんと提示しているので。

(近間総括主幹)

中央地区まちづくり協議会の事務局として、今回オブザーバーとして参加している。

合田委員ご指摘のとおり、中央地区まちづくり協議会の議論の過程では、図書館は静かな環境で本を読むとか学習する。アーニスの2階には飲食のスペースもあるので、おいをシャットアウトできないと様々な意見があった。ただ、全体としては、中央地区のまちづくりを考えた際には、図書館にアーニスの2階に移転していただいて活性化を図るというのが、まちづくりの観点では望ましいのではないかとということで提言をまとめた。あくまで中央地区のまちづくり協議会は地域の活性化という観点から提言をまとめたと理解いただければと思っています。

(合田委員)

まちづくりという観点ですね。

(近間総括主幹)

地域の活性化という観点で。

(合田委員)

でも、その過程を知らないで判断を委ねられる市民は、大事なところを知らないとか気づけないまま判断をしないといけないかもしれない。情報は良い悪い含めて、もう少し丁寧に提供しなければならないと思う。

(松田委員)

他にないでしょうか。それでは、次の「意見交換会の開催について」事務局お願いします。

(館長)

別添資料の説明

・意見交換会の開催について

※補足説明

検討委員会を今後立ち上げていく。図書館協議会委員の皆様にも加わっていただきたい。検討委員会でも意見を伺います。意見交換会は、市民からの意見を伺いたいので、委員の方からはご遠慮願いたい。

(原委員)

明日から始まる意見交換会で、図書館がなぜ街に必要なかという役割とか機能とか、内容が少ない気がする。例えば、「図書館に必要な機能」とありますが、機能は働きということですね。働きとなると、貸出するとか保存するとか。それに必要なスペースにつながるのならわかるのですが、機能イコールどここのスペースとなると、場所だけあれば良いのかなと印象を受ける気もする。図書館の本当の機能を説明するのであれば、もう少し足す部分があるのでは。

(館長)

図書館の専門的なお話になってきますので、今回一般向けなので、わかりやすく資料作ったところで、今原委員からお話のあったところは、説明の中で触れていきたいと思う。

(原委員)

説明がもう少し欲しい。スライドに書き込める量が少ないのではないけれど、ちょっとフワっとしているので具体的なことを言ってほしい。あと、新たな図書館を建設する場合の主な利点のところで、耐用年数が何年とか、それも大事だと思うが、そういう建物の問題よりも、図書館を作るうえで、中長期的な、将来的に見据えた運営や、そういったことの方が市民としては聞きたいのでは。耐震性とか大事ですが、図書館を知ってもらう良い機会でありますので、そういうのを出さないと具体的な判断がつかないのかと。

(合田委員)

補足して良いですか。

この問題ずっと考えている。大事なところが抜けている。

～図書館法の3条1項について説明～

これを忘れていないか。この議論の中で。

(館長)

図書館について、全く知らない方も数多いと思っている。原委員、合田委員からあった重要なところもあるが、難しいところではなく、入りやすいところからと思っている。

(合田委員)

受け方の理解度があるから、説明しても難しい。そこはわかりますけど、公共図書館とは何か。その原点を外した議論をわかりやすいからといって。機能やスペースや数の問題とか、こういう議論だけでは。市民は、もっと違う図書館のイメージ抱いていると思う。図書館嫌いと悪い印象持ってるの聞いたことない。説明会開くのであれば、どういったところに配慮しながら説明しないといけないか。大事なところ押さえて、説明する側にちゃんとした熱意がなければ。その議論を館内でやったのかどうか。ただのアリバイ作りではなく。図書館がこのまちで理解されているか疑問に思っている。急がないで、もっと丁寧にやってもらいたい。

(松田委員)

明日からの資料は変えることは可能ですか。難しいのであれば、口頭で。事務局どうですか。

(館長)

資料の差し替えは、正直難しいので、口頭で説明したいと思う。

(合田委員)

先日のアーニスで主査に見せてもらった資料はどうですか。

(今回の) 資料を読んだけど、わかりにくい。数量的な説明だけではなく。

(原委員)

スペース。冊数のところ。アーニス含めて14万3千とある。アーニスに置けない部分はどこに置くのか。アーニス2F約11万冊可能と議事録で見たが、合わない部分はどうする。

(部長)

その関係は、次の検討委員会の中で協議するべきことになりますので。例えば、フリースペースを大きくすることによって、排架が狭くなることはあり得ると思います。ですけど、どちらを選ぶのですかというのは、次の検討委員会で皆さんに協議していただくことになろうかと思います。まだ移転するしないも、フラットなので。移転が前提にはなるとは思います。決めているわけではないので、場合によっては、白紙になることもあるかと思ってます。

(原委員)

重さの関係で、こういう数値になったのですか。

(近間総括主幹)

まちづくり協議会の報告書なので、私の方から説明します。

アーニスの構造上の耐化性をベースにして、一般的な書架の重さがこれくらいで、それでどの位の重さになって。通常配置すると15万冊で本館よりは多く設置できるであろう。あくまで、まちづくり協議会側が机上で出した数字になる。実際に図書館がどうあるべきかという議論の中で、排架数が満たされるのか。これが満たされなければ移転ができないというような、スペースの使い方を含めて今後検討していく。その中で移転が可能かというのは、教育委員会側で判断することになるのかなと。あくまでも、まちづくり協議会の参考数値ということで。

(部長)

場合によっては処分することもあり得ると思います。同様の書籍があれば減らすとか。何を選択するかは、今後皆様の協議次第と我々はおさえています。

(原委員)

民間施設なので、経営破綻したら図書館は出ていかないとならないとか入れないのか。

(合田委員)

普通考えて当たり前。

(松田委員)

ただ、今から倒産したらと入れるのは。

(原委員)

(アーニス移転の改修費) 3億6千万円とは何か。

(近間総括主幹)

概算。他市で同様に商業施設に移転した時を参考に。

(原委員)

賃貸料は。

(近間総括主幹)

これには入っていない。

(合田委員)

年2～3千万かかる。それを提示しないと。税金使うので。年間払い続けるのも。提示しないのは、とても納得いかない。

(部長)

今後の話になるので、まだ何とも言えない。はっきりとした交渉を進めているわけではないので。

(館長)

賃料がかかるとはお話する予定です。

(合田委員)

今いくら、観光経済部払ってるのか。

(近間総括主幹)

ただ、交渉ごとに委ねられる部分があるので、観光経済部が使っているのを使うと、判断がぶれてしまうことがある。

(部長)

もしかして、これを出すことによって、今入ってるテナントからのハレーションもなきにしもあらずなので、実際に決定した後はお伝えすることが出来るかもしれませんが。

(合田委員)

でも、事務局長はうちも出すと言ってますよ。

(教育長)

それは、何を出すというのでしょうか。

(合田委員)

賃料が、毎年二千万も三千万もかかるなんて、税金で私は納得出来ないと言ったら、うちも持つんですって。

(部長)

まけてくれるということでしょうか。

(合田委員)

わからないけど。こういう事情でお金がない、建物が老朽化している、まちづくり

の賑わいをなんとかしたいという思いの三つはセットではずせない。こういう状況にある中、今後図書館はどうするのか。一応、案としてアーニスがあるんだって。そういう説明をしてください。わかりやすく。この条件があって、こういう案があって、だから皆さんどう思いますかと聞けば良い。前提として、図書館の基本のきは伝えなければならないです。図書館は大事なもののなので。

(松田委員)

意見交換会は、決定する場ではないですね。

(事務局)

はい。

(及川委員)

今のアーニス分館の賃料は、教えてもらえますか。

(事務局)

お伝えして良いのでしょうか。

(部次長)

決算にも載っているのです。

(主査)

260平米で年間約300万です。

(須藤委員)

スライドで新たな図書館の建設は、20年間は困難とある。この20年間は無理かもしれないけど、20年度は可能ということであれば、それに向けて市民が知ってなければならない。基礎のきを知らずに20年後は迎えられないと思います。将来を見据えた事を市民に伝えるのも図書館の役目であると思う。

(原委員)

新館は建てられないけど、そこに何十年間か行きますという気持ちなのか、いつときの事ですというのでニュアンスが変わってくるのですが、図書館は移転をどう考えているのか。

(部長)

教育委員会で、新館を建てるの希望を捨てるつもりはありません。少なくとも20年、25年は無理だろうと考えています。ですけど、ここの場所でもちますかとなっ

たとき、どうなんだろうというところで、まちづくり協議会から、市民の一つの声としてアーニスを使ったらどうですかとご意見いただいたので、それも一つの案と捉えています。新館建設の旗は下ろさずに行きたいと思っています。市長部局側に新図書館の建設基金もありますので、それを活かした中で建てられるような方策を20、25年かけて作り上げていきたいと考えています。今、20年後建てましょうとは。今この状態を解決することが難しいので、そこはジレンマではあります。

(原委員)

ちょっとした期間の移転はありえないと思う。腰を据えた移転となった時に、図書館としては最低15万冊でいけるけど、移転の時は15万冊がマックス位な、その時点で正反対な方向を向いている。これから移転した後、図書館の出来ること、今より良くなる具体的なことを見せてほしい。

(部長)

まず明日からの中で、皆さんが移転した後に良い図書館を作ってくださいという気持ちが大体を占めているのであれば、でも、ほとんど反対であれば撤回しないととも思っていますが。明日からフラットに聞きたい。我々も判断つかない。素直なお気持ちを、ライト・ヘビーユーザーも、ざっくばらんにお聞きしたいと考えています。資料が足りないのは、明日は口頭の説明になるのかも知れませんが、図書館がもともとの役割があるんですよというのは冒頭伝えられるかなと。間に合うかがありますが。

(原委員)

移転に反対ではなく、良い図書館。市民の方が本来の図書館の持つ機能を十分に受けられるサービスの場になるのであれば移転も全然かまわないと思います。

(部長)

その辺の実際の機能というのは、検討委員会で、具体的なお話をお聞きしていきたいなと思っています。

(松田委員)

市の中心ですから、図書館は。これからも、より良いものを考えていくというのは、皆さん共通なので。

(館長)

本日の意見をしっかり受け止め、明日からの意見交換会にのぞんでいきたい。検討委員会については、改めてご相談させていただきたい。

以上